

思索と方便

大流星自動記録装置

福岡 坂 元 鐵 馬

此は光電管がもう少し發達すれば、實現する可能性があります。圖を説明しますと、上段は、

1—大型鋭敏光電管

2—流星の直接寫眞撮影装置

A: 球面收差を軽減する爲め
水晶球と硝子球とを組合し
たもの。

B: 球面の内側に感光乳劑を
塗つた球面乾板。

C: アルミニウム製の半球
状蓋、つまりシャッタの
作用をする。

D Cを電氣的に開閉する装
置。

3—スペクトル撮影装置

A: 薄き磨り硝子の半球。

B: 大型拋物線鏡。

C: 第二反射鏡。

D: スリットの前にあるシャ
ッタを電氣的に開閉する裝置。

E: 分光寫眞機。

4—方向感知機

全天を十二區に分ち、十二個の鋭敏光電管を具ふ。

中段は

a: 増幅機

b: 電流變化記錄機

c: リレー

d: シャッタ開閉回数指示機

e: 方向記錄機

f: リレー

g: 増幅機

下段は電池

dを見てシャッタが開閉した事が示された時は、61電流變化に依り何時何分に何等星位の流星が何秒間程飛んだかを知り、3の乾板を現像して流星が二個以上寫つてゐる時は、cに依り飛んだ流星の方向を知り、區別がつく。3の乾板を現像すると、その流星のスペクトルが分ると云ふ鹽梅です。即ち、出現時刻、繼續時間、光度、直接寫眞スペクトル寫眞、見掛の速度が分る事になります。二ヶ所に設けておくと眞高度も得られます。

第 四 圖

